

# 令和元年度全国いじめ問題子供サミットに参加して

令和2年1月25日(土)に、「令和元年度全国いじめ問題子供サミット」が文部科学省講堂で開かれ、本県からは、6名の生徒が参加しました。

本年のテーマは「私たちが考える『令和の時代のいじめ対策』」で、いじめの防止策にはどのようなものがあるか、また、傍観者にならず、仲間のためにできることは何かなどを、協議しました。また、本年度は、船橋市立三田中学校小林彩葉さんが、いじめ防止等の取組についてポスターセッションによる発表を行いました。参加者は、いじめ問題への取組の決意を新たにし、早速各学校の生徒会での話し合い活動を始めるなど、いじめ防止への活動につなげています。



僕が今回のサミットで学んだことは、いじめに気づく、知らせる、相談する、というステップです。いじめに気づき、先生や友人に知らせて共有すれば、いじめの撲滅につながると思います。しかし、いじめられている人が我慢していると解決することは難しくなります。少しでも嫌なことを感じる人が先生や友人に相談できる環境を生徒会が中心となり、作りたと思います。  
佐倉市立井野中学校 原 悠泰



いじめサミットで自分と年の近い方と関わることができてとても良い刺激になりました。ポスターセッションでは小・中学生が色々な活動をしているのを見て「自分たちの学校に生かせないか」と考えるようになりました。協議では、他校の方々の色々な意見を聞き、視野が広がりいじめについての理解も深まりました。

成田市立公津の杜中学校 田中 緋織

このサミットを通して「いじめの定義」を知ることが一番大事だと思いました。ポスターセッションでは、様々な小・中学校のいじめ防止への活動がとても参考になりました。学んだ内容を生かし、今後も自主性を意識して多くの活動に繋がるとともに、「いじめの定義」について公津の杜中生と話し合っていきたいと思っています。

成田市立公津の杜中学校 長谷部 陽太

私は、全国いじめ問題サミットに参加してたくさんの人の意見を聞くことができました。私は、いじめは、「他人が嫌がることをすること」と考えていましたが、話し合いの中では、いじめの定義を考えただけで、その対策まで立てている人がいました。協議を通して他の人といじめについて一緒に考えることで、さらにいじめについて深く考えることができました。

成田市立遠山中学校 矢城 亜結



サミットを通して、「いじめ」について以前より深く考えることができました。ポスターセッションでは、たくさんの学校や市がいろいろな視点から「いじめ防止」に向けて工夫された取り組みを行っていることがわかりました。その取り組みの中で、「市内の学校の生徒会が集まって行う会議」を、ぜひ船橋市でも市の取り組みとして行いたいと思います。また、生徒が「いじめ」について考える場をもっと増やしていきたいと思っています。グループ協議では、意見交換や発表を通して、「いじめ防止」のために必要なことを新しく知ることができました。このサミットで知ったことや考えたことを大切に、今後の活動に生かしていきたいです。  
船橋市立三田中学校 小林 彩葉

今回のサミットで、協議したことはとても有意義なものばかりで、自分の学校でもぜひ取り組んでみたいと思いました。特に印象に残ったことは、いじめに対する受けとり方の違いです。その違いを埋めるためにも「いじめの定義」の理解が重要だと感じました。また、傍観者の方も全体の雰囲気をつくるために重要だと感じました。このサミットで学んだことを生かし、胸を張って「岩中はいじめゼロです」と言えるような学校を作り上げたいと思います。  
木更津市立岩根中学校 大江 凜々

この件についての問合せ先  
教育振興部児童生徒課  
電話 043-223-4055

